【授業科目】小児看護援助論Ⅱ（健康障害）　Child NursingⅡ

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
増田 由美、別所 史子、馬場 佳理	３年次 前　期	必　修	1	３０	演　習	あり	巻末 記載	否

授業概要 （内容と進め方） 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／さまざまな発達段階にある子どもの健康障害の特徴や、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について学習し、健康障害をもつ子どもと家族に適切な看護を提供するために必要な知識と技術について、講義・演習・グループワークを通して修得する。 課題に対するフィードバック方法／提出された事後課題に対して全体の傾向や疑問点についてコメントを述べる。
実務経験に関する 授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な子どもと家族に対する看護の知識について、専門的かつ知見に基づく資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	1. 子どもの健康障害の特徴と健康障害の回復に向けた子どもと家族への支援方法を述べることができる。 2. 健康障害を有する子どもにみられる主な症状と症状の回復に向けた基本的な支援技術が説明できる。 3. 事例を通して健康障害を有する子どもと家族に必要な看護援助を考え、実践できる。 4. 事例を通して看護過程の展開（情報収集、アセスメント、統合、看護問題の抽出、看護計画立案）ができる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	事前学習： ・第 1、3、5、11～15 回において指定の教科書の単元に該当する箇所を事前に読み、疑問点を整理しておく。 ・本科目に関する人間発達学（選択）、家族看護学（選択）、治療学Ⅴ（小児）、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰの講義資料をもとに、子どもの発達や健康問題について復習しておく。(30 分) ・第 6～11 回において、既習の知識（疾患、病態生理、治療、合併症などの疾患の理解、検査及び結果の基準値、成長発達、子どもと家族のライフサイクル、各発達段階における子どもと家族の発達課題など）をもとに、健康障害を有して入院する子どもの看護過程を展開する。したがって、演習までにこれらの知識を再確認し、不足するものは学習しておく。（60 分） 事後学習： ・第 1、3, 5、11～15 回において配布資料や教科書の該当箇所をよく読み、復習する。疑問点は調べて時間外に積極的に教員に質問する。理解できないまま放置しない。(30 分) ・第 14 回の演習に向け、第 1 回に第 14、15 回に小児看護に必要とされる主な看護技術に関する事前・事後課題を課す。（各 60 分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2 単位 15 回科目の場合：予習+復習 4 時間／1 回）（1 単位 15 回科目の場合：予習+復習 1 時間／1 回）（1 単位 8 回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
	第1回　オリエンテーション　健康障害をもつ小児の看護①　呼吸機能障害（第2回にかけて）	増田
	第2回　看護過程①　オリエンテーション、アセスメントの枠組み	増田
	第3回　健康障害をもつ小児の看護②　ハイリスク新生児	馬場
	第4回　看護過程②　事例紹介、疾患と治療の捉え方　※第5～8回の「発表」はグループワーク	増田
	第5回　看護過程③　発表（疾患と治療の捉え方）、情報収集/情報整理、アセスメント（パターン1～5）	増田、馬場
	第6回　看護過程④　発表（パターン1～5）、情報収集/情報整理、アセスメント（パターン6～11）	増田、馬場
	第7回　看護過程⑤　発表（パターン6～11）、パターンの統合、看護問題の抽出・計画立案	増田、馬場
	第8回　看護過程⑥　発表（統合、看護問題の抽出・計画立案）、実施と評価について	増田、馬場
	第9回　看護過程⑦　ハイリスク新生児の看護過程の展開	馬場、増田
	第10回　看護過程⑧　看護過程のまとめ	増田、馬場
	第11回　健康障害をもつ小児の看護③　循環機能障害	増田、別所、馬場
	第12回　健康障害をもつ小児の看護④　消化吸収機能障害	増田
	第13回　健康障害をもつ小児の看護⑤　排泄機能障害	増田、別所、馬場
	第14回　小児看護技術演習（バイタルサイン測定、酸素・吸入療法）	増田
	第15回　演習の振り返り、健康障害をもつ小児の看護⑥　神経、代謝機能障害	

評価方法 評価基準	筆記試験 80%、課題 20%で評価する。

教科書	奈良間美保他著『系統看護学講座　小児看護学概論・小児臨床看護総論　小児看護学①』医学書院 奈良間美保他著『系統看護学講座　小児臨床看護各論』医学書院 中野綾美他著『ナーシング・グラフィカ 小児看護学②小児看護技術』　メディカ出版 （2年次「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「治療学Ⅴ」で使用したものと同じものを使用する）	参考書等	内山聖他著『標準小児科学』医学書院 岡田正他著『標準小児外科学』医学書院 茎津智子『発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程』 石黒彩子ほか『発達段階からみた小児看護過程』

学生への 助言等	本科目は「人間発達学」（選択）「家族看護学」（選択）「小児看護学概論」「小児看護援助論Ⅰ」「治療学Ⅴ」の授業内容を理解していることを前提として進めていきます。子どもと家族、成長・発達、解剖生理、疾患の病態生理、治療などの復習をして授業に臨み、理解を深めるために積極的なグループワークの参加や、講義内容への質問をしてください。授業の理解度によっては、講義の内容や順番が変更になる場合があります。